

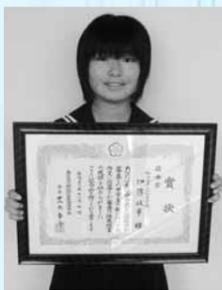
平成23年度中学生の「税についての作文」優秀作品紹介

12月号に引き続きまして、中学生の「税についての作文」で各賞を受賞されました生徒の皆様の作品をご紹介します。

社会を支える税

三和中学校一年 伊藤 岐華

昨年、近くの製材所から火が出て火事になりました。全焼してはいけないという事で、たが実際に見てみると、木は、ほとんど燃えていました。



もし、ここに消防車が来ていなかったら製材所はどうなっていたでしょうか。製材所だけでなく周りの家にも燃えうつつってしまったと思います。それどころか、製材所はおもかげもなく焼けてしまったと思います。今は、前と同じように仕事を再開されています。私は、早く消防車が到着して火を消してくれたことに、とても感謝しています。よく考えてみると、これは税金があるからこそ出来たことだと思います。

今、消費税を五パーセントから十パーセントに上げるとい話をテレビや新聞で見ようになりました。消費税が上がるということは、物の値段が上がり、今よりも多くのお金を払わないといけないようになります。最初聞いた時は、絶対消費税を上げてほしくないと思っていました。だけど、税は、みんなのために使われているものであり、なくてはならないものです。私達が一年間で納めている税は全部で四十一兆円なのに対して、支出は九十二兆円で、大きな赤字となっています。そのため、消費税をあげることで少しでも赤字を減らすことができたらいいなと思います。また、日本よりも税の高い国の暮らし方などを見習って役立てられるようになるのもいいと思います。時々、必要のないものを税金で買ったというニュースを聞きますが、社会で役に立たない物などを勝手に買うのはやめてほしいです。

私は、人の命を救ったり、学校で使う教科書を無料で提供してくれる税はすごいと思います。それだけでなく、信号や高速道路などいろんな所で使われています。今は、物を買った時についてくる消費税くらいしか払っていませんが、大人になると消費税以外にも税を払わなくてはなりません。払う税が増えるのは嫌ですが、安心して整った設備の中で暮らすことが出来るように、納めないといけない税はきちんと納めたいです。また、和歌山は医療費が中学生までは無料です。これは、たくさんの方が税を払っているおかげです。ですが、納税をしていない人もいます。これからの私達の将来をもっと住みやすい国にしていきたいために、みんながきちんと税を納めるようにしてほしいです。そして、私達の暮らしを支えてくれている税に感謝しようと思います。将来、たくさんの方が安全で楽しく過ごせるように。

消費税に対する考え

三和中学校一年 竹下 実花



「消費税が十パーセントに上がると嫌ね。」母はニュースを見ながらそう言ってました。その時の私は税金についてあまり知らなかったたので、母の反応をみて消費税が上がることは良くないことだと決めつけていました。実際、買い物をしたときに払うお金が増えるというお金の増えるのは嫌だなと感じていました。だけど、租税教室で税について学んで、消費税が増えることはみんなのためになることが分かりました。近年、日本では少子高齢化がどんどん進んでいます。高齢者には年金が支払われていますがその年金は税金からきています。しかし、その年金の元、税金が足りなくなっています。今もどんどん増える高齢者を支えるために、消費税を上げる必要があるのです。仮に、今税金が上がらなくても、将来近いうちにもっと上がると思っています。その税金を納めるのは今働いている人たちや私たちです。さらに私たちが社会にで働くころにはもっと高齢者の人口の割合が増え、高齢者一人に対し、一人の労働者が支える割合になると言われています。そうなったら、労働者の負担が重くなってしまうと思います。そのために消費税を上げるのです。

また、消費税が高くて、それは苦しいことではありません。スウェーデンがその例です。スウェーデンの消費税は二十五%と世界一税率が高い国ですが、スウェーデンの人々はそれを苦に感じていません。なぜなら、スウェーデンでは、その税金で医療費や教育費を負担したり、新聞は無料で街に配られたり、雑誌も公共図書館に備えつけられたりしています。

このように、高い税金を払うことで、豊かで不自由のない生活を送ることが出来る国もあります。生活のほとんどのことは税金でまかなってくれるので、スウェーデンの人々は安心して毎日を暮らしているのです。この国のような税金の使い方をしてくるなら、消費税が上がっても良いと思います。むしろこの少子高齢化が進むこの国を支えるためにも消費税を上げるべきだと思います。税金が上がるとは私たちの生活に悪影響を及ぼす事ではありません。税金は、今の日本を支え、私たちの生活を今よりもっと良くするための物なのです。私達は、税金に対する物の方や価値観をもう少し変えてみる必要があると思います。税金はこれからの私たちを支える大事な物なのだから。

安心できる地域医療

三和中学校一年 竹下 真里



私の住んでいる、和歌山では、中学校三年生まで、病院での医療費が無料です。私は最初、これが税金で補われているとは知らず、なんでこんなことができるのだろう、と思っていました。しかし、中学生になって、税のことを学校で学んで、初めて町の税金で支払われていることを知りました。

私がこの制度に気づいたのは、小学六年生のときです。病院で受け付けの人から呼ばれるのを待っていたら、隣りに座わっていた母が、お金の準備ではなく、お金の代わりに、オレンジ色のカードを出していました。気になったので、このオレンジ色のカードは、何なのかきいてみました。すると、この町の中学三年生までは、このカードを受け付けの人に出示すると、医療費が、町からの税金で補われているので、その場でお金を払わなくてもいいようになっていて、母が教えてくれました。しかし、小学生だった私には、そもそも「税金」というものがよく分からず、なぜ無料なのか、あまり理解することができませんでした。

中学生になり、租税教室でさまざまな種類の税金を学びました。いままで、税に真剣に向き合ったことがなく、税に対する知識が浅かった私は、税に関係するものが身近な所にあふれるほどあったことに気づき、大変驚きました。そして、この町では、町民が納めたお金の一部を中学三年生までを、対象にして病院での医療費の無料化に使っている、ということが分かり、安心して暮らしていられるのも、この税金のおかげだと思いました。

私は、たとえこの国の税金が増えても嫌だとは思いません。なぜなら、税金が私達の暮らしをよりよいものにしていくからです。最近、消費税が五パーセントから十パーセントに上がるという話を聞きました。反対の意見が多いようでしたが、私は、このことに賛成です。「税が上がる」ということは、国を支える資金が増えるということだからです。それに、私達がいとも何気なく払っている消費税のおかげで国が安定し、国民が笑顔で暮らしていると思うからです。この消費税の一部は、地方交付税として、この町にも、給付されていると思います。地方交付税は、それぞれの町によって給付される金額や、使われ方も、ちがいます。私達の町では、その地方交付税が、今年の九月から始まる、中学校三年生までだった医療費の無料化が、高校三年生まで助成対象が拡大するの役に立っています。もう、あと何年後かには、私達がこの国を支えなければなりません。日本をしっかりと支えられるようになるためにも国に欠かせない「税」について、今のうちに学習しておかなければいけないと思いました。私は、この国が誰にとっても、住みやすく安心できる場所になることを祈り、納税の義務を果たしたいと思いました。

国民で支え合うこと

菊水中学校三年 平野 菜那



「この消費税の五円って何？」小学生の頃一〇〇円ショップで買い物をしてる時、ふと思った。なぜ一〇〇円ショップなのに五円余分に払わなければならないのか。幼い私は税のことをよく知らず、「きりの良い値段にすればいいの」などと考えていた。

小学六年生の時、学校で租税教室が開かれた。この時初めて税を理解し、重要性を感じた。特に衝撃的だったのは公立学校の児童・生徒一人当たりの国と県と市町村の年間教育費の負担額だ。小学生が八十二万七千円、中学生が九十五万七千円、高校生が九十一万八千円という額を聞き私は耳を疑った。自分が学校へ行き、勉強するのに国が国民から預かった大切なお金をこんなにも使っているなんて全く知らなかった。では、もし税金がなかったら私の生活はどうなっていたらだろうか。学校へは通えないこととももちろん、今のような健康で快適な暮らしはできていない。そう考えると税は私達の暮らしの中でも大切なものだとということがわかる。

税は国民全体が支払っているもので、たくさん種類がある。消費税、酒税、たばこ税、関税、地方消費税、自動車税などさまざまである。今はまだだが私も将来仕事を始めたら所得税という税を支払わなければいけない。自分が働いたお金が国のために使われるのなら、喜んで支払おうと思っている。税があるからこそ、私は今こうして幸せに生活を送れるし、国民が支え合いながら生きてゆけるのだと思う。東日本大震災がおきて、日本は大きな被害を受けたがその復旧費にも税が利用されている。このように日本が私はとても誇らしく思える。

これからの日本の社会は、少子高齢化が進み、ますます税の重要性が高まっていく。だから、国民全員が税についてもっと理解していくことが大切だと思う。日本の未来が更に明るくなるために、税を払っていただくことは思う。

